
おっところまえ

ごはんライス

タテ書き小説ネット Byヒナプロジェクト

<http://pdfnovels.net/>

注意事項

このPDFファイルは「小説家になろう」で掲載中の小説を「タテ書き小説ネット」のシステムが自動的にPDF化させたものです。この小説の著作権は小説の作者にあります。そのため、作者または「小説家になろう」および「タテ書き小説ネット」を運営するヒナプロジェクトに無断でこのPDFファイル及び小説を、引用の範囲を超える形で転載、改変、再配布、販売することを一切禁止致します。小説の紹介や個人用途での印刷および保存はご自由にどうぞ。

【小説タイトル】

おっところまえ

【Nコード】

N29220

【作者名】

ごはんライス

【あらすじ】

男前であることに悩んでいる贅沢な男の悲劇。

「男前やねえ」

「そうですか」

「かっこいいですよ」

「はあ」

オレはあまり嬉しくない。実際、男前だからだ。男前なのに「男前ですネえ」と言われたってそのまんま過ぎて反応しづらいのだ。

「男前ですネえ」と言われ喜ぶのはブサイクだけだろう。

オレはとにかく男前なので女にもてる。

今日もデートだ。やれやれ。疲れる。

「わーい。わーい。たけしさんと歩くと他の女子が振り向くから口り華楽しい！」

「悪趣味な女だねえ。あんた」

「ふふふ。あ。あの女、殺してやるみたいな目つきであたしを見てる。カ・イ・カ・ン」

「病院に行った方がいいよ」

まったく男前は疲れる。前からヤクザが女と腕を組んで歩いてくる。

当然のことだが、ヤクザの女はオレを見てうっとりとする。

ヤクザはむかついて、オレをボコボコにする。

そのうち人が群がってくる。

「まあ。かわいそう。あんな男前があんなブサイクヤクザに」

「ブサイクヤクザ、ひっこめえ」

ヤクザは、ちっと舌打ちして去る。

みんなは、オレを悲劇の英雄みたいに扱う。

「暴力を振るわないなんてさすが男前ねえ」

「よしおちゃんも男前のお兄ちゃんを見習いなさい」

「うん！」

ちっ。うぜえ。もしオレがブサイクならこんなこと言われないだろう。男前じゃなくてもいいからボコされない人生の方がいいよ。

ロリ華はロリ華で、オレにばんそこうを貼ってる自分がナイチンゲールのように自分で思ったのか、うつとりしてる。あほめ。疲れる。ブサイクじゃ絵にならんが男前を介抱してる図は絵になるのだ。「あーあ。男前はやだなあ。笑いの一つもとれん」

オレはほんまにいやだったので、ある日、丘の上にあるメンマ博士の研究所へ行き、整形してくれるように頼んだ。

「まあ、できることもないが、いいのかい。普通、逆だろう」

「いいんです。お願いします!!」

メンマ博士はオレを実験台の上に乗せ、大手術を始めた。

「ぎい。があああ。ぐあああ」

なにやら不気味な道具を使って顔をいじる。オレはわくわく興奮してきた。いったいどんな顔になるんだろう。できるなら、世界一のブサイクになりたいものだ。男前はもうたくさんだ。

数日後、顔に巻いた包帯をとるときがきた。ロリ華も同席している。いったい何でたけしさんという顔をして泣きそうだ。

ついにオレの顔が現れた。

ロリ華は目を点にしてる。メンマ博士はこれでいいのかなあという顔をしている。

オレはロリ華に鏡を渡され、自分の顔をのぞいてみた。

「!!!!!!!!!!!!!!」

何という顔だ。見よ。読者。この顔を見よ。すげえ。この世のものとは思えない!!!!

あ。そうか。読者は見ることができないのか。残念。これが小説なのすっかり忘れていたな。漫画か映画だったらよかったのに。

とにかく、オレはチョースーパーモンスタースペシャルデラックスブサイクに変身したわけである。

当然、ロリ華はオレに連絡をくれなくなった。ふん。うざい女がいなくなっせいせいするぜ。

道を歩いただけで石を投げられる。

ちびっこがオレを見てわんわん泣く。

ちびっこの親が走ってきて「うちのよしおちゃんに何するの！」

と叫んで大根でオレの頭を叩く。

向こうからヤクザが歩いてきた。

オレを見るなり不愉快そうな顔をしていきなり殴りかかってきた。
ボッコボコにされるオレ。

「ふん。ムカつくやつめ」

オレはボロボロになりながら、何だこれは、前と同じではないかと思う。

もう一回整形し直したいが、メンマ博士の手術料は高い。もう無理だ。

その後も落とし穴にはめられたり、警官が拳銃で撃ってきたり、野良犬に噛み付かれたり最悪であった。オレは世界の嫌われ者になっってしまった。

オレは公園のブランコで一人、さびしく、佇んでいた。

後ろから誰かが声をかける。

「たけしさん」

「ロリ華???」

オレはうれしくなる。ロリ華はオレを見捨てないでいてくれた。

オレは、ぱっと後ろを振り返る。

「げ」

そのロリ華の顔ときたら、見るもブライク。思わず殴りたくなるようなブサイク。キング・オブ・ブサイクであり、見てるといらいらいらしてくる。まったくムカつく。な。読者もそう思うだろう。読者は見ることができないのか。チキショー。小説は不便だ。

「ろ、ロリ華。いったい全体」

「貯金下ろして、メンマ博士に手術してもらったの」

「そうか」

普通なら感動的なシーンである。泣けるじゃないか。男のために

自分もブサイクになってしまふなんて。

しかし、オレはロリ華のブサイク顔を見てるとイライラしてきて、ロリ華をぶん殴りたくてうずうずしてきた。ロリ華も同じ気持ちのようだ。拳を握り締めている。

カーーーーン。

ロリ華対オレの恐怖のデスマッチが今開幕した。

2

結局どっちが勝ったかとかはどうでもよかった。世にもブサイクなカップルが誕生してしまったというだけの話だ。

オレとロリ華は仕方ないので結婚した。したくなかったけど、お互いブサイク過ぎて他のやつらが逃げる。仕方のないことだ。

そして、もちろん、子供が生まれる。赤ちゃんのときはみな、サルみたいなのでようわからんが、成長してきて、二歳か三歳かになると、ごっつかわいい子になる。これは当たり前のことだ。整形する前、オレは男前だったし、ロリ華もロリ顔でけっこうかわいかったのだ。その遺伝子を引き継いでるわけである。

そんなわけで、息子が五歳くらいになると、保育園でいじめられるらしい。あまりにも親と顔が違いすぎるので橋の下で拾われてきたんだとか友達に言われるわけである。（つづく）

PDF小説ネット発足にあたって

PDF小説ネット（現、タテ書き小説ネット）は2007年、ルビ対応の縦書き小説をインターネット上で配布するという目的の基、小説家になろうの子サイトとして誕生しました。ケータイ小説が流行し、最近では横書きの書籍も誕生しており、既存書籍の電子出版など一部を除きインターネット関連に横書きという考えが定着しようとしています。そんな中、誰もが簡単にPDF形式の小説を作成、公開できるようにしたのがこのPDF小説ネットです。インターネット発の縦書き小説を思う存分、堪能^{たんのう}してください。

この小説の詳細については以下のURLをご覧ください。
<http://ncode.syosetu.com/n2922o/>

おっところまえ

2010年10月13日03時25分発行